## 15.内名所図会を訪ねて その九 玉手山安福寺

"初蝉や 人松陰をしたふ比(ころ)"

"雲折りく 適(まさ)に青葉見ゆ玉手山"

と当時すでに景勝地として有名だった玉手山に寛政 7 年(1795)に一茶が訪れ「西国紀行」にしるしています。





安福寺(浄土宗知恩院派)は玉手山丘陵の中央部、玉手山公園北側の谷間に位置しています。 行基によって開基された寺も中世には荒れ果て小堂が一棟残るのみでした。(建長年間(1249~56)に親鸞の門弟慶西が復興したと記す記録もあります。)

寛文 6 年(1666)浄土宗の僧珂憶上人が小庵を構え、寛文年中(1667~70)寺を建立しました。 この珂憶上人に深く帰依したのが尾張二代目藩主徳川光友公でした。徳川光友公の手厚い庇護 のもと上人は寺を再興されました。また光友公は珂憶上人の学徳を尊敬し、さまざまな宝物や寺 田を寄進しました。(寺宝・山水蒔絵硯箱他 2 点は国指定重要文化財)

本堂には阿弥陀仏象を本尊とし左に珂憶上人木像、右に尾張歴代藩主の位牌を祀る。本堂は 総欅造り屋根が低く、梁、柱が太く確実牢固で地震や台風にびくともしない強い造りになっていま す。この造りを「聖徳太子式珂憶建て」と呼ばれています。



法隆寺を建立した渡来人の大工仲間の一部の人達が河内に移住しその伝統を受け継ぐ集団の 技術を珂憶上人が採用したことに由来すると言われています。

玉手山付近は古代尾張村の本拠である安宿郡(あすかべぐん)尾張郷の地でした。尾張との結びつきが強く、この地は珂憶上人と光友公が出会う前から尾張徳川家に縁があったのです。

寺の後方に広がる玉手丘陵には4世紀に作られたと思われる10数基の古墳があり安福寺の所有地の中には7号墳があります。そこを利用して(境内最上部)玉垣を巡らせた3基の宝篋印塔があります。中央に尾張二代目藩主徳川光友公、左に夫人の松寿院殿と右に三男(実際は長男)松平義昌の石塔が建てられています。

そして、玉手山 7 号墳の後円部には珂憶上人建立の大坂夏の陣戦没者供養塔が建っています。 慶長 20 年(1615)5 月 6 日豊臣方西軍・徳川方東軍の両軍がこの地で激突。片山、玉手あたりから道明寺付近一帯は多くの戦死者を出した古戦場です。墓所も定まらない戦死者の霊を慰めるために珂憶上人によって建立されたのです。

## ・安福寺所蔵夾紵棺(あんぷくじしょぞうきょうちょかん) 寺宝・柏原市有形文化財

夾紵棺とは、布に漆を塗って何層にも貼り重ねて板状にして作った棺のことです。安福寺が所蔵する夾紵棺の一部は絹布を 45 層張り合わせて作ったもので、絹を使った棺は安福寺の夾紵棺のみで、最高級品と言えます。身分の高い人の棺と見られ、聖徳太子の棺ではないかとの説もあります。(昭和 33 年猪熊兼勝氏安福寺で見つける)

珂憶上人より大和額安寺の仏舎利 2 粒を聖徳太子廟に寄付をいただいた。夾紵棺はこの仏舎 利寄進のお礼として手にしたものかもしれません。

境内には、割竹形石棺、安福寺横穴群が残る。

## ・他に安福寺と関係のある人の墓

江戸深川霊厳寺・珂山の墓。浄真寺・珂碩上人の墓と位牌。竹中半兵衛の墓と位牌。 石丸石 見守定次の墓と位牌。畠山義真の墓と位牌。他 (2021 年 菱木)

(参考) 秋山離島編、丹羽桃渓画、堀口康生校訂『河内名所圖會』